

住宅建築

特集：沖縄の住宅建築

原広司+アトリエΦ 設計同人GAN 東設計工房 福島駿介+東浜義明 建築アトリエPAO
末吉栄三計画研究室 二基建築設計室 アトリエZEN 福村広美+福村俊治
連載：私の本棚から／布野修司 ギリシアの伝統的な民家／白濱研究室
モノクロームの世界〈建築の黙示録〉／宮本隆司+太田省吾

文化としての住まいを考える建築専門誌
●第137号●昭和61年8月1日発行●毎月1回1日
発行●昭和59年11月13日国鉄首都特別扱承認雑誌
第7885号●昭和50年6月7日第3種郵便物認可●

ISSN
0389-6358

8

1986

対談「風土と建築」
原広司+平良敬一



福村邸

沖縄県浦添市

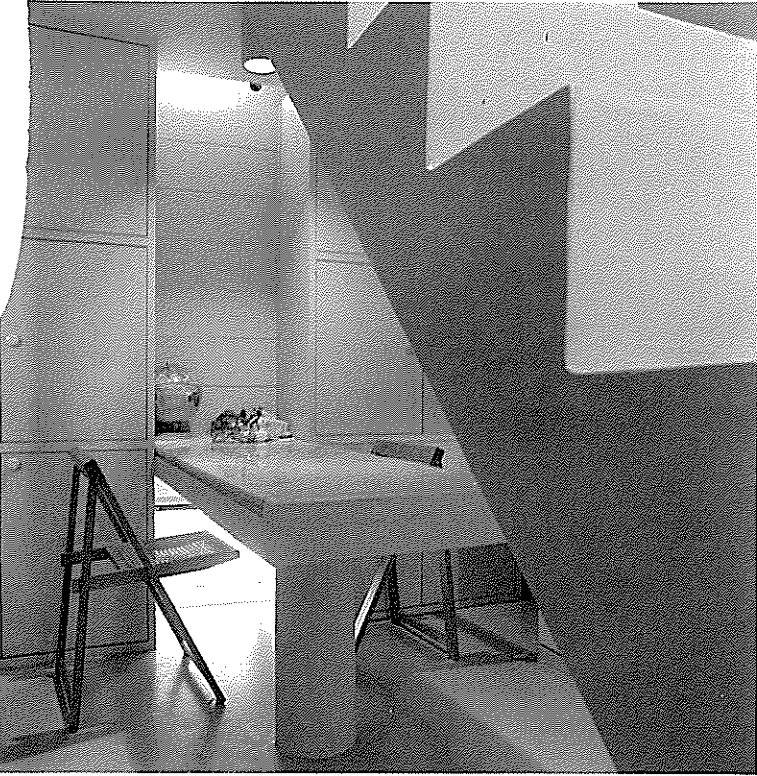
設計 = 福村広美 + 福村俊治

施工 = 旭東建設

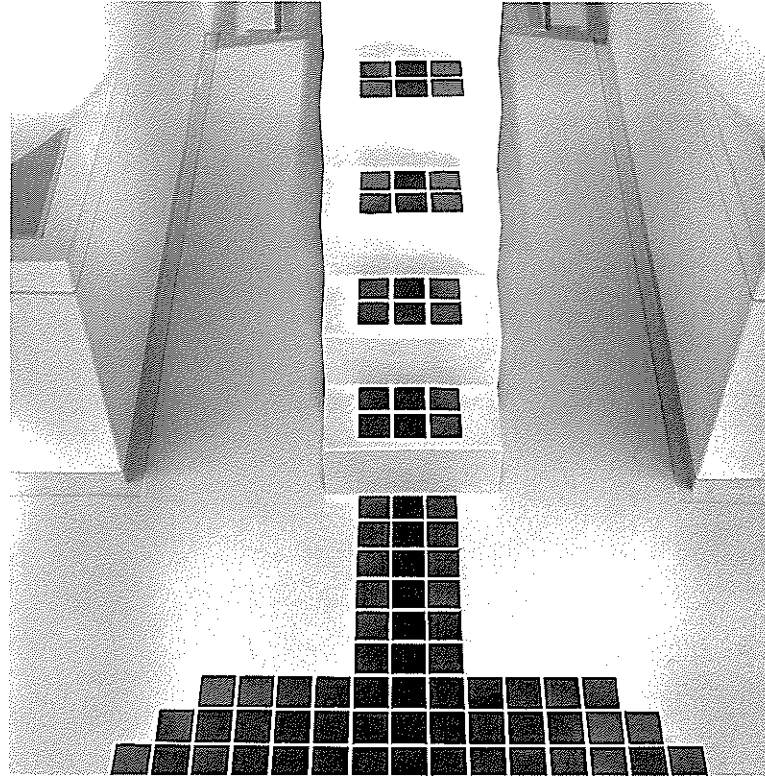
写真 = 岩為

▼南西側外観

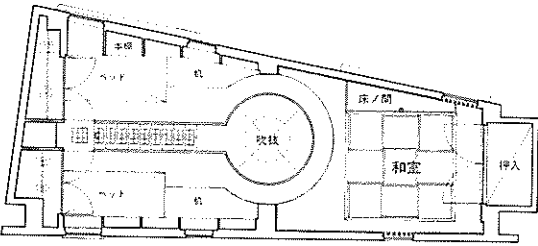




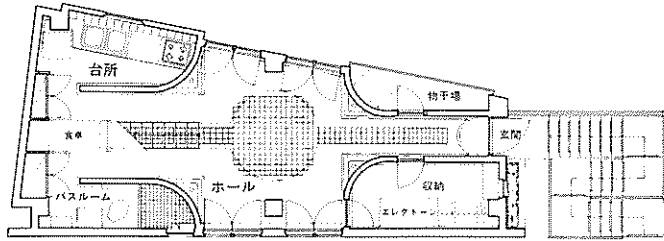
▲2階食卓をみる



▲ホール階段足元廻り詳細

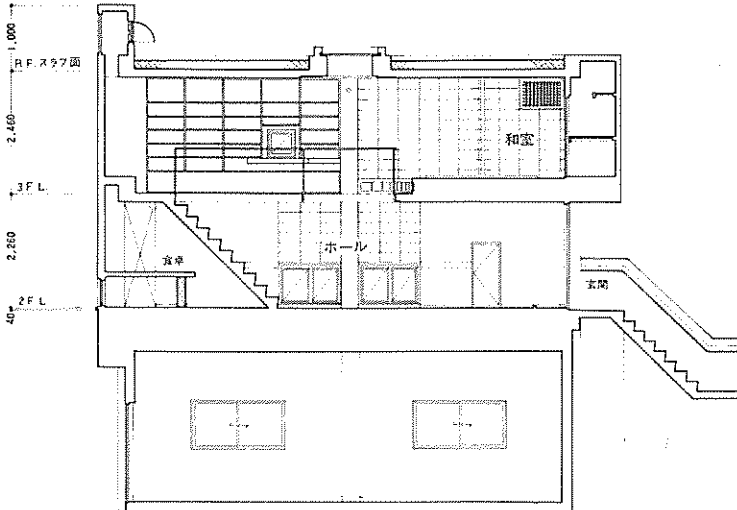


3階平面図

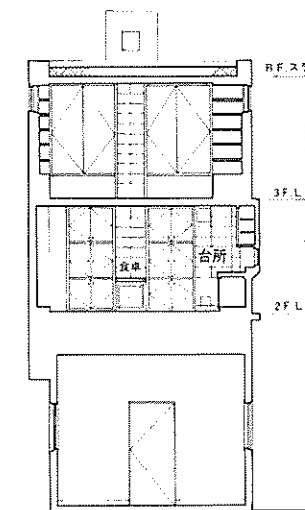


2階平面図 1/150

南北断面図 1/150



東西断面図 1/150



配置図

[資料]

- 建物名—福村邸
- 所在—沖縄県浦添市仲間
- 家族構成—夫婦
- 設計—福村広美+福村俊治
- 施工—旭東建設
- 竣工—1983年9月
- 構造規模—コンクリートラーメン構造3階建
(1階は既設)

●面積

- 敷地面積—53.7㎡ 建築面積—32.2㎡
- 延床面積—87.0㎡ (増築/57.1㎡)
- 既存1階/29.9㎡
- 2階/29.9㎡ 3階/27.2㎡

建蔽率—60% (59%)

容積率—200% (162%)

地域地区—住居地域

●主な外部仕上げ

屋根—コンクリートスラブの上に保土厚200%

壁—コンクリートブロック厚150%弾性
ポントイル吹付け

建具—アルミサッシュにり出し トップライト: サッシュレス

●主な内部仕上げ

天井—ホール、和室、キッチン、ダイニング/コンクリート打放し補修EP

壁—ホール/コンクリートブロックEP、
コンクリート補修EP 和室/コン
クリートブロックEP キッチン、
ダイニング/コンクリートブロック
EP、コンクリート補修EP

床—ホール/モルタル金ゴテエポキシ塗
布一部100角タイル 和室/タミ
一部コンパネOSGL キッチン、ダ
イニング/モルタル金ゴテエポキシ
塗布

●設備

給湯—瞬間湯沸器 (コンカース)

その他—シンク: モーリM-900 水栓: グロ
ーエB-514 レンジ: ショルテスFC
012A

●工費

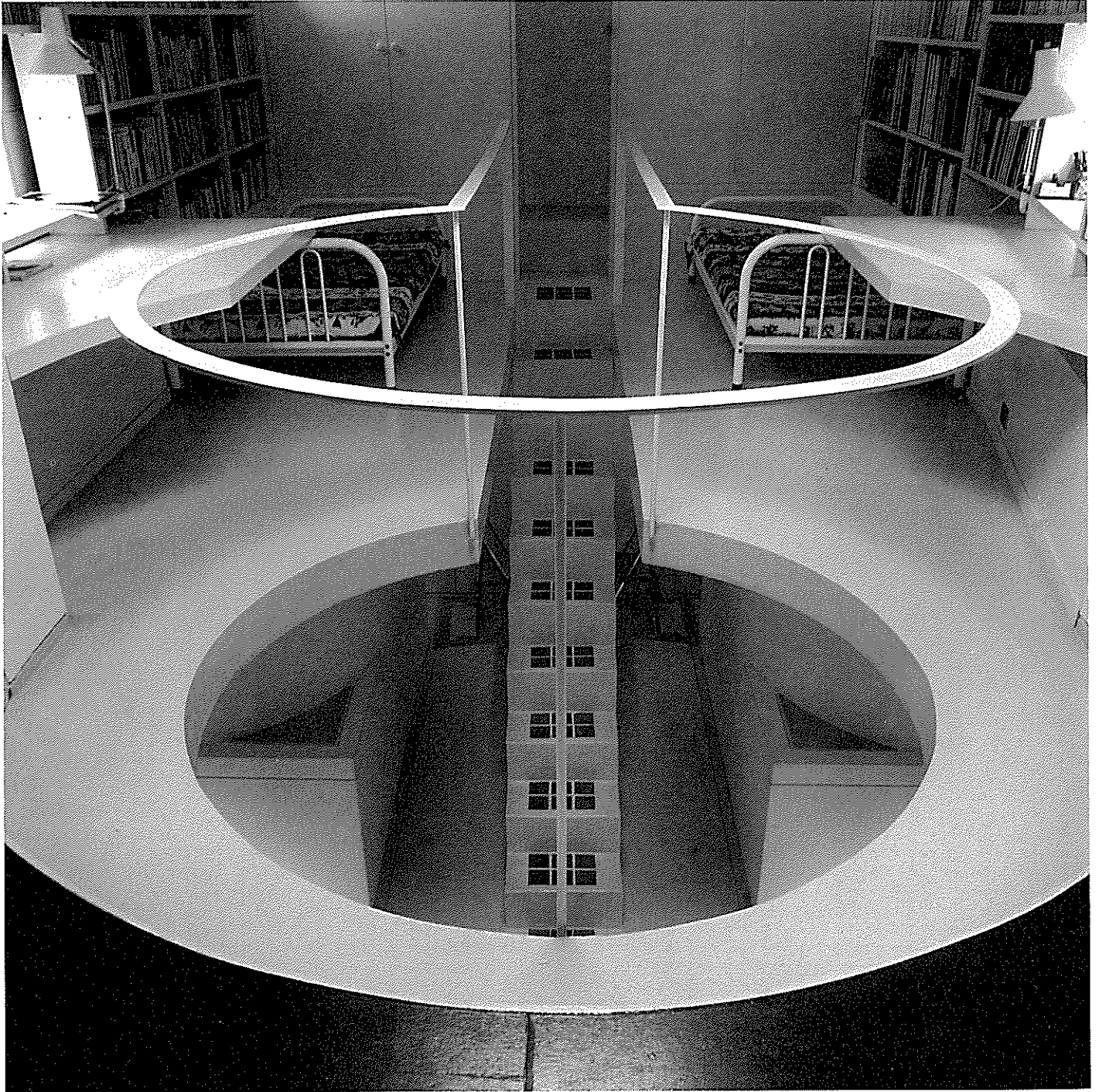
総計—554万円



▲ホール—玄関側よりみる



▲食卓側よりホールをとおして玄関をみる



那覇市から北へ約5 km、浦添市の交通量のかかなり多い県道沿いの、16坪の敷地に建つ、たった9坪の倉庫（現在、喫茶店）の屋上に増築した住宅である。幅約2～4.5m、長さ約8 mの不整形の建物の上の増築は、庭もなく、真西に面し、道路騒音をもろに受けるなど、きびしい条件下の住宅の設計であり、設計者が自ら住むという二点から、「実

験住宅」という意味あいのつよい住宅となった。夫婦二人が住むための最小スペースを確保するために、最低天井高の二層を積み上げ、基本的に一室空間をつくることにした。そして、不整形で狭い二層空間の中に、入口、ホール、階段を結ぶ強い中心軸を設け、ホール上部の吹抜けの形や床タイルなどとともに、

空間の長さ、奥行きを強調し、狭い建物の中で、空間ののびやかさと、美しさをつくろうと試みた。家全体が一室空間であるものの、ダイニング・キッチン、バスルーム、ベッドルーム、和室などの機能空間がホールから見えにくいように配置し、家具類はもとより、流し台、食卓、机なども造りつけとし、常に整然とした住宅

に見えるようにするとともに、住宅のどのスペースも、無駄のない最小寸法で納め、室内は白で統一した。ただ床タイルのみブルーを採用した。これは、沖縄の海を再現すべく、二人で窯変タイルの濃淡を選び一枚一枚並べたものだ。沖縄の住宅でもっとも大切なことは、「涼しさ」である。RC構造の建物



は木造に比べ、蓄熱しやすいことにある。沖縄の夏の太陽の日差しは強烈である。が、しかし、常に快い4〜5mの風が吹き、夏の日中の最高気温は東京に比べても2〜3度低い。つまり、常に風を通し、日差しをさえぎり、建物への蓄熱を防げばいい。真西に面し、樹木、庇、バルコニーを設けるスペースさえないこの住宅におい

ては、まず屋上に断熱用の上がのせてあり、できるかぎり窓を少なくし、換気用窓のみとした。自然換気がスムーズに行われるように下階は床近くに、上階は天井近くに窓を設けた。上階上部には強制換気設備もあり、夏場は常に外気で建物を冷やし蓄熱しないようにしている。タイル床とモルタル下地ペイント塗りの床は、素足の感触

も冷たく快い。その上、洗うこともでき清潔でとてもいい。二度の夏を過したが、小さい扇風機一台で事足りた。内外装仕上げのコンクリート打放し、または、コンクリートブロックペンキ仕上げは、戦後からずっと沖縄で行われてきた一般的、ローコストの仕上げで、少々納まりがあらくなりがちだが、

やり方によってはとってもシンプルで美しく、塗りかえも容易でとてもいい。きびしい条件下のもとで、二人で苦戦しながら設計したこの総工費550万円の17坪の小さな増築住宅だが、とても住みごちのいい、「別世界」であると思っている。(福村俊治)